

さっぽろ
自転車散歩

I号



きたの やっさん

はじめに

自転車散歩は、自転車そのものを楽しむほか、自転車の持つ気軽に行動できる利点を生かして、自分の趣味を楽しむことができます。

たとえば、カメラスケッチ、お花見などの他、花の観察など、いろいろあります。

ここ数年、老躯をいたわりながら、サッポロのいろいろな場所を巡ってきました。札幌にはサイクリングロードも数カ所あり、市発行の案内パンフレットもあります。コースによっては、まるで人気（ひとけ）のないところがあります。貸し切り状態の走行を楽しむことができます。サイクリングロード以外にも結構楽しめる一般道もあります。75才を超えているので、市街地はもっぱら歩道走行で、凹凸に悩まされながら走っていますが、早く一般車道を安全に走れるときが来るのを待ち望んでいます。

今までの走行記録から自転車散歩紀行を綴ってみました。

□

コース起点は、すべて大通4丁目に設定します。

① 北大 散歩コース

□ 走行距離 約8km



観光案内ではポプラ並木が定番であった北大だが、04年の台風で倒れた木が多く、昔の面影はなくなった。だが、それ以外でもいろいろと楽しめるコースである。

大通りから西5丁目通りを北上すると北11条に大学の正門がある。入ってすぐ左手に、北大交流プラザ「エルムの森」がある。北大からの情報発信の場であるが、気軽に誰でも入れ、北大グッズを買ったり、軽食を摂ることもできる。ここで北大構内案内書をもらおう。

□□□



春の訪れは北大にも・・・早春、正門を入れて右手の百年記念会館前の水場では可愛い水芭蕉が咲き出す。ちょっと目立たない場所にある。それ以外にも1センチにも満たない花々が至るところに咲いている。都心とは言え、この広々とした構内に入ると別世界に入り込んだ感じで空気まで違った匂いがする気持ちとなるから不思議だ。

直進して左手角にクラーク像がある。右手に見える白い木造の建物は、古河記念講堂である。明治42年（1909年）に建設された北海道初のフランス・ルネサンス様式の建物、足尾銅山事件で社会の非難を浴びた古河財閥が、罪滅ぼしのため寄付したお金で建てられたそう。内部は鹿鳴館様式のインテリアとのこと。このロータリーから北に向かい一直線の道路が延びている。

約1kmある。北大のメインストリートである。車道は自転車走行用のスペースが確保されており安心して走ることができる。



北大に咲く水芭蕉



一面に咲く可憐な草花



北大総合博物館



北大第二農場



煉瓦造の建物

両側にはずらりと新旧取り混ぜた建築様式の校舎群が並んでいる。建物は重要文化財に指定されている第二農場（明治24年：1891年）から現在まで120年間にわたる近代建築史の見本のような建物が現存している。案内図と見比べながら、じっくりと建物鑑賞ができる。また、貴重な資料が展示されているのが総合博物館である。興味のある向きにはじっくりと見学もできる。道はやがて北18条に突き当たる。そこに北大第二農場、モデルバーンがある。わたしが一番好きな場所だ。北海道畜産の発祥の地、クラーク博士の指導の下、つくられた洋式のモデル農家で内部を見学できる。徒歩で訪れにはちょっと遠いせいか、人影はまばらである。一回り見学して池畔のベンチで休憩するのもよい。第二農場を出て西に向かう路も散歩道として快適である。道の下はバイパスのトンネル、環状通りエルムトンネルが通っている。道はやがて新川通りに突き当たる。一度外に出る。交通量が激しいので歩道に行くが快適さからほど遠い道である。



北大第一農場から都心を望む



秋のイチョウ並木

構内沿いに走り、第一農場脇からまた、構内に入ろう。ここからは、札幌市中心部の高層建築がよく見える。とても都心にいるとは思えない風景である。道なりに走ってもとの直線道路に戻る。右手に池が見える。大野池という。池畔では人々が憩っているのが見える。となりには中央食堂がある。ここで昼食を摂るのも一興である。安くて旨い。

セルフ方式だが居心地のよい食堂だ。学生気分に戻れる。この大野池手前に有名なイチョウ並木がある。

シーズンともなると大勢の人で賑わう。中には銀杏を一生懸命集めている人もいるが、にわかカメラマンが大勢出動する。

- 北大のシンボルであったポプラ並木は04年の台風で倒れて以来、立ち入り禁止となっており、往時の面影はなくなってしまった。北大にはもう一つの施設がある。北大付属植物園である。函館本線のガードを潜って見えてくるのが、通称、植物園である。時間があれば寄ってみるのも一興である。

北大は都心に近い格好の散歩場所である。興味の赴くままに時間を過ごすことができる。

② 芸術の森コース

走行距離 32km



札幌市の観光スポットでもある芸術の森探訪コースである。

大通り4丁目から駅前通りを南に進む。夜は賑わうススキノあたりも朝は人影もまばらで走りやすい。

突き当たりはT字路で中島公園、南9条通りである。左折して南大橋に至る。

橋のたもとで右折し豊平川の河畔に下りるスロープからサイクリングロードに出る。ロードを南下する。幌平橋、ミュヘン大橋の下を潜り、きつい斜路を登り豊平川に架かっている歩道橋の藻岩上橋を渡る。



自転車道より藻岩山を望む

豊平川の土手路に沿って走ると真駒内公園内のサイクリングロードにつながる。ここでちょっと寄り道。真駒内ドームを左に見て五輪通りに出てみよう。札幌冬季オリンピックを記念した五輪大橋がある。橋の袂を飾るのはオリンピック記念の彫刻である。本郷新氏の花束、山内壮夫氏の飛翔である。橋の欄干には五輪マークが付けられている。しかし、ハゲ落ちがひどくモニュメントして如何なものかと思う。ここから芸術の森までは緩い登りの路となる。せせらぎの音と緑に癒されながら進むと、やがて急な登り道となる。登り切ったところが石山陸橋のたもとである。ここに、サイクリング用の休憩所がある。といっても公衆トイレとベンチ、剥げ落ちた案内板があるだけだ。支笏湖までのサイクリングロードの出発点でもある。

老齢の身では上り下りの激しい道に挑戦する意欲も体力もない。

ここまで約12kmの道のりである。行く手はサイクリングロードとして指定されているが、自転車専用路はどこにも見あたらない。どうやら歩道が自転車道となっているようだ。



五輪大橋の彫刻



五輪大橋の彫刻



石山公園の舞台



石山公園のオブジェ



石山公園

ところが歩道そのものが狭く、凹凸が激しい。専用道は更に数キロ進んだ地点からしかないのだ。とても老体の身で2車線の車道を走る気持ちにはならない。この石山陸橋から芸術の森に至るルートは、あと2ルートある。東側の丘陵地帯の登り道を辿り芸術の森の裏側に出るルート。西側の駒岡清掃工場脇を通るルートである。この両方を試したが芸術の森所在地より、かなり高さを稼ぐのでその分登りがきつく閉口した。やはり支笏湖ルートを通るのが賢明のようだ。支笏湖への道に入っすぐの十字路右手に石山緑地がある。ローマの遺跡を思い出させるような公園。もと石切場を札幌の彫刻家たちが芸術表現の場として93年にオープンさせた、公園全体が彫刻というオアシスである。。

陸橋から芸術の森までは約4 km、もう一息である。シーズンには町内会で手入れされた升花壇を愛でながら進むと、やがて芸術の森正門が右手に見えてくる。



芸術の森オブジェ



清水九兵衛 ウィグ



福田繁雄 椅子になって休もう

自転車置き場が橋を渡ったところにある。下の敷地には美術館・ガラス工芸・陶芸・木工などクラフト関係のなどの作業場、展示場がある。ちょっと長い階段を上っていくと上段のエリアに着く。

音楽・演劇などの練習場があり、夏のPMFが開かれる野外音楽堂もある。なんといっても目玉は野外美術館である。内外の63作家、73点の作品が展示されている。ダニ・カラヴァンやグスタフ・ヴィーゲランの作品も鑑賞できる。桜の季節や紅葉の季節、自然と溶け合った作品巡りも楽しい。

食堂は園内にもあるが、入り口正面にあるカフェディフロンテアッラルテというレストランが楽しい。特大のスピーカーでよい音楽を聞かせてくれる。

帰りは元来た道に戻るのみ。しかし、行きに苦勞した分、ほどほどのダウンヒルが楽しめる。豊平川サイクリングロードは右岸を利用、南大橋（南9条）までひとっ走りである。

③ 豊平川橋巡り一周コース

走行距離 33km



札幌のサイクリングコースの定番である。川の左岸、右岸ともに自転車道が整備されている。

散歩やランニングの人々に気をつけながら思い切り走るのもよいが、川風に吹かれながら、豊平川に架かる橋のバリエーションを観察しながら走るのも一興である。



南大橋の鮭

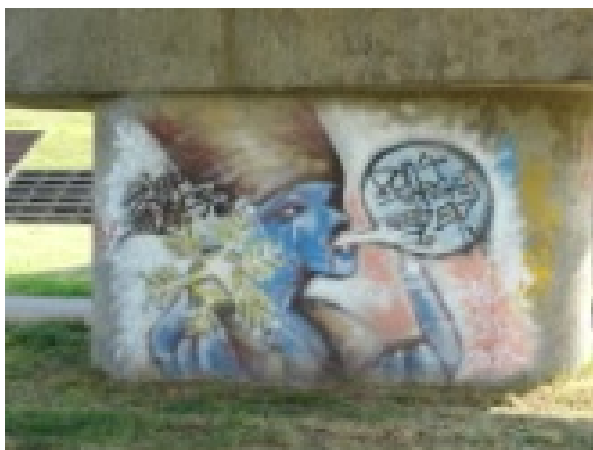


南7条パークゴルフ場



豊平川鉄橋

芸術の森コースと同じく、南大橋たもとで左岸のサイクリングロードに入る。南大橋の欄干には鮭が鎮座している。南7条大橋まではお年寄りが元気な声を上げているパークゴルフ場がある。36号線に架かる豊平橋、でんでん大橋、一条大橋、水穂大橋と続く。東橋は新しく架け替えられた。平和大橋をくぐると、JRの豊平川鉄橋が見えてくる。鉄道マニアには格好の撮影場所かも知れない。次の上白石橋はちょっとみずぼらしい。昔、宅地分譲のために民間業者が架設したという現在では考えられない橋である。更に下流には、北13条大橋、豊平川第2水管橋、環状北大橋と続く、この手前で道は水辺から堤防の上に移る。約7kmの地点である。しばらく土手の道を走り、高速道路と併行した豊水大橋の下を潜るとUターンの地点である雁来大橋が見えてくる。この両橋とも1980年頃建設された。札幌市発展の象徴でもある。市の案内板では雁来大橋とサイクリングロードとは連絡路がないと注意書きがある。その通りで、橋に近づいたら適当な所から自転車を押して押し上げた方が早い。ここまで約10km。



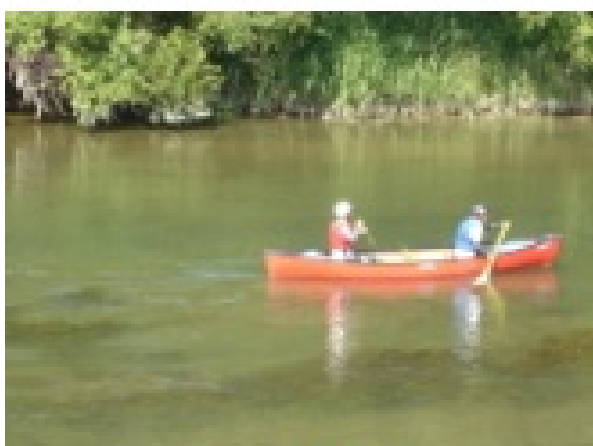
芸術作品？

ここで対岸に渡る。目の前には白石清掃工場の巨大な建物が見えてくる。渡った川岸は雁来健康公園でグラウンドが見える。ここから又、豊平川岸に戻ることになるが、判りやすい道が整備されていない。

清掃工場脇の一般道を走り高速道路と交差する手前の道を右折して支流の川を渡り、そこから豊平川岸に戻るのが良さそうである。右岸に戻ることになる。道は草むらの中を走ることもあるが続いている。この辺りは、札幌市郊外の雰囲気満ちている。途中、バイクをとめて川面を眺めるのもよい。

シーズンにはカヌーの練習も見られる。戻りではあるが、道がちがうので風景も異なり退屈することはない。走っていると、遙か彼方に鋭い峰の恵庭岳などの山々が望める。夕暮れになると一段と風景は美しくなる。

橋巡りして目に付くのは橋脚に描かれた落書きである。結構、大作もある。市も気がついているのだろうが消された気配はない。



カヌー遊び？



川岸の日向ぼっこの場所



幌平橋



幌平橋上から



ミュンヘン大橋

走っていると、各橋の案内板が目につく。南大橋までは約2.2km

。

ここまでは余り人の気配がない。南大橋を過ぎると幌平橋が見えてくる。真ん中にアーチの歩道橋がある面白い橋である。階段状の歩道橋を登ると豊平川が一望に見渡せるビューポイントである。川岸から斜路を登って橋見物するのも面白い。橋建設の由来の銘板もあるし、歩道橋の上で、川風を受けるのも心地よい。

ここから南19条橋を潜り優雅な吊り橋のミュンヘン大橋が目の前になる。

豊平川に架けた一番最後の橋である。藻岩橋を過ぎて行き止まりとなり斜路が堤防上に導いてくれる。そこから引き返し藻岩上橋という人道橋を渡って、左岸の河畔の道路に入り引き返す。ここまで約2.6km。あとは一気に南大橋から大通りまで6kmの道のりだ

。

ほとんどが専用道路だから気兼ねなく楽しめるコースである。